

JIC インフォメーション

第 213 号 2021 年 3 月 25 日

特別号・日露観光交流セミナー報告

1 部 500 円

発行所: JIC 国際親善交流センター 発行責任者: 伏田昌義

<http://www.jic-web.co.jp>

東京オフィス: 〒160-0004 東京都新宿区四谷 2-14-8 YPC ビル 7F TEL: 03-3355-7294 jictokyo@jic-web.co.jp

大阪・ロシア留学デスク: 〒540-0012 大阪市中央区谷町 2-7-4 谷町スリースリースビル 7F TEL: 06-6944-2341

はりねずみのジェーニャ



ロシア・旧ソ連
国際交流誌

【報告】日露観光交流オンラインセミナー

ロシアのお土産と世界遺産

～専門旅行社としてJICスタッフが紹介～

昨年 12 月 22 日に日露観光交流オンラインセミナー（主催：観光庁および日本旅行業協会）が開催されました。新型コロナで昨年は海外旅行が完全にストップしてしまいましたが、「コロナ後」を見据えて、海外旅行を取り扱う旅行会社のスタッフや関係者を対象に、ロシアの魅力と観光情報を伝えツアー商品造成の参考にしてもらおうという取り組みです。

セミナーでは、いくつかのロシア専門旅行社、航空会社、ロシア側観光機関（サハリン・沿海地方観光局、ブリヤート共和国）からテーマ別に報告が行われました。わがジェーアイシー旅行センターからも、杉浦信也と岡本健裕の 2 人が、ロシア観光情報として「お土産とショッピング」（杉浦）、「ロシアの世界遺産」（岡本）のプレゼンテーションを行いました。

以下は、セミナーでの報告をベースに補加筆したロシア観光情報です。旅行社スタッフ向けの報告ですが、ロシア観光を考えている人にも十分参考になります。（編集部）



日露観光交流オンラインセミナー <報告>

【ロシアのお土産とショッピング】

民芸品・マトリョーシカの産地を訪ねて…………… 杉浦 信也……………2P

【ロシアの世界遺産】

ロシアの世界文化遺産と自然遺産セレクト…………… 岡本 健裕……………11P

<http://www.jic-web.co.jp>

JIC では、Jクラブ(JIC 友の会)会員を募集しています。
年 4 回の情報満載のインフォメーションをお届けします。

ロシア観光情報／ロシアのお土産とショッピング

民芸品・マトリョーシカの産地を訪ねて

杉浦 信也 (ジェーアイシー旅行センター株式会社、取締役営業部長)

ロシア観光情報のテーマ別紹介ということで、私からはロシアのお土産とショッピングについて紹介させていただきます。ロシアのお土産で一番ポピュラーなものはマトリョーシカですが、他にも焼き物や土人形など民芸品・雑貨、ウオッカやチョコレート菓子など、ロシアには様々なお土産があります。場所的にも、モスクワはロシア最大の民芸市・ベルニサージュから極東ウラジオストクの週末市場まで、非常に広い範囲にわたって各地にユニークな土産物があります。

私どもではここ 10 年ばかりロシア雑貨の買い物ツアーやマトリョーシカの工房・工場見学ツアーを毎年開催しています。私も毎回添乗で同行しておりますので、今日はその添乗の際に撮りためた写真などをもとに (あまり奇麗な写真ではないですが)、ロシアの雑貨や土産物、お店の情報などをご紹介します。



ロシアは20以上の共和国をはじめ
数多くの州や地方などの
構成主体からなる多民族国家。

●ロシア連邦 Russian Federation
■面積 1,700万平方キロメートル
■人口 1億4,651万人 (2016年)
■首都 モスクワ
■時差 ロシアには11の時間帯がある。
主な時間帯は以下の通り。

都市名	時間帯	日本との時差
●モスクワ	GMT+3	(-6時間)
●サンクトペテルブルグ	GMT+3	(-6時間)
●イルクーツク	GMT+8	(-1時間)
●ウラジオストク	GMT+10	(+1時間)
●ハバロフスク	GMT+10	(+1時間)
●サハリン	GMT+11	(+2時間)
●カムチャツカ	GMT+12	(+3時間)
●日本(参考)	GMT+9	

●言語 ロシア語
●通貨 ロUBLE 1US\$=約50ルーブル
●宗教 東正教
●国産品
●日本大使館 モスクワ
Moscow, 120900, Гроховский пер., 27
Tel : (495)229-2550, 229-2551
Fax : (495)229-2555

●モスクワとその近郊

歴史と経済の中心モスクワは、ロシアを代表する国際都市である。また、ロシア人の心のよりどころであるロシア正教の大本山が置かれたセルギエフ・ポサードや中世の町並みを残すスズダリでは、ロシアの歴史を感じることができる。

- クレムリンと赤い広場
- コロメンスコエのゴズネセニエ教会
- セルギエフ・ポサードとロジツェル・ポサードの建造物群
- ツァーリツィンとスズダリの古くからの建造物群



●サンクトペテルブルグとその近郊

北東部大都会が林立する聖彼得堡。サンクトペテルブルグは西側に開かれた都市として、現在と過去の歴史の重なり合いを今に残している。近郊にはロシア帝国の宮殿や教会の美しい建築が目を惹きつけてくれる。

- サンクトペテルブルグ歴史地区と要塞建造物群
- ツァーリツィンとスズダリの建造物群
- キジ島の木造聖堂



●イルクーツク

イルクーツクはシベリアの「パリ」とも呼ばれ、ヨーロッパ風の教会や建物がならび並び、また自然が美しい。バイカル湖にも近い。

- 木造教会建造物群
- バイカル湖

●ウラジオストク・ハバロフスク

日本から約2000km離れたこの2都市は、日本から一番近いロシアへの入り口としてロシアとの経済文化の交流の中心地として発展を遂げている。ウラジオストクは世界最長距離シベリア鉄道の始発点でもある。



●サハリン・カムチャツカ

サハリンはかつて日本の領土だったこともあり、日本とのつながりが深い都市。またカムチャツカは雄大な自然と貴重な動植物の宝庫。



モスクワ、ペテルブルグ周辺のマトリョーシカ産地

本題に入る前に少し全体的な概括ですが、こちらの図は私どもで編集発行している「ロシア・ハンディガイド」という小冊子に「ロシア基本情報」として載せているロシア・旧ソ連地図です。右下が日本です。日本海を越えた対岸がウラジオストクですね。本日のセミナーでは何回もウラジオストクが出てきました。ウラジオストクから北に上がってハバロフスクで西に向かう鉄道がシベリア鉄道です。モンゴルの北にあるのがバイカル湖とイルクーツク、さらに西へ西へと走ってウラル山脈を越えたとするとすぐモスクワです。

後ほど紹介しますが、モスクワ近くには、キーロフ、ニジニ・ノヴゴロド、ウラジーミル、セルギエフ・ポサードといったマトリョーシカや民芸品の産地が沢山あります。モスクワから北西に行くとサンクトペテルブルグ。もうフィンランド国境のすぐ近くです。ペテルブルグから北へラドガ湖を通してオネガ湖に入ると世界文化遺産の木造教会建築で有名なキジー島があります。さらに北へ上がって北極海につながる内海の白海に面してアルハンゲリリスクという港町があります。この町にもやはり民芸の里があります。本日は、モスクワとその周辺のマトリョーシカ・民芸品の産地を中心にお話したいと思います。

ロシアのお土産一覧

ショッピングの対象であるロシアのお土産にはどんなものがあるでしょうか。ざっと紹介しておきます。

- ・マトリョーシカ：木製の入れ子人形。胴を外すと中から同じ形の人形が次々と出てくる。
- ・細密画の小箱：18 世紀終わごろイコン画家たちが始めた漆塗りの小箱。
- ・ホフロマ塗り：黒地に赤、金などで花や鳥などを描いた木製漆器。スプーン、カップ、お皿など。
- ・グジェリ陶器：モスクワ南東のグジェリ村で作られる陶器。白とコバルトブルーの美しい色合いが特徴。
- ・白樺細工（ベレスト）：白樺材、白樺の皮で作った小物や入れ物。
- ・プラトーク：ロシアの民芸調のスカーフあるいはショール。色鮮やかで独特の図柄。
- ・琥珀（こはく）：天然樹脂の化石。ネックレスやペンダントなどにして売られている。バルト海沿岸が産地。
- ・その他：ウォッカ、キャビア、チョコレート菓子など。

ロシア最大の民芸品・蚤の市「ヴェルニサージュ」（モスクワ）

モスクワ市の北東部にイズマイロヴォ公園という広大な公園があります。公園の一角には、昔はイズマイロヴォホテルという名前でひとくくりにしていましたが、今は名前が変わってイズマイロヴォ・アルファ、ベータ、ガンマ...とそれぞれ独立したホテルになっていますけれども、大きなホテル群が建っています。その奥手に「ヴェルニサージュ」と呼ばれる民芸市があり、東京ドームが入るくらい非常に広い場所に木造りの露店が立ち並んでいます。最寄りの地下鉄駅は「パルチザンスカヤ駅」です。



ここにはマトリョーシカだけでも何十軒という店が並んでいます。ホフロマ塗りとかグジェリ焼き、プラトークなど様々な民芸品店があります。奥の方には、ソ連時代のバッジや衣服、ポスターなどありとあらゆるものが置かれています。上の写真はマトリョーシカのお店ですが、ここはみな手作りです。自分で作って、ここにマトリョーシカを売りに来ている方です。

モスクワ・ツアーの買い物はヴェルニサージュへ行くと面白いと思いますが、少なくとも 2 時間か 3 時間は見ておく必要があります。年中無休ですが、土日は出店が多くとくに賑わいます。

マトリョーシカを買うときは中までよく確かめて

ここで、マトリョーシカを買う時の注意です。皆さん、買うときには値段の交渉などされる方もいますが、買いたいと思ったものはぜひ店の人に「中を見せてください」と言って確かめてください。入れ子人形なので一つずつ開けて、中に何個入っているか、きちんと揃っているか、確かめてから買っていただくことをお勧めします。マトリョーシカの値段は、外身だけではなくて中が何個の入れ子になっているかによって違います。ものによってはプロ職人の名前入りだから高いとか色々ありますが、中まで丁寧に作ってあるかどうか確認するためにも、よく確かめて買うことをお勧めします。

マトリョーシカは、産地によってまた作り手の職人によってもいろんな特色がありますので、是非あれこれ見比べながら、気に入ったものを見つけていただければと思います。

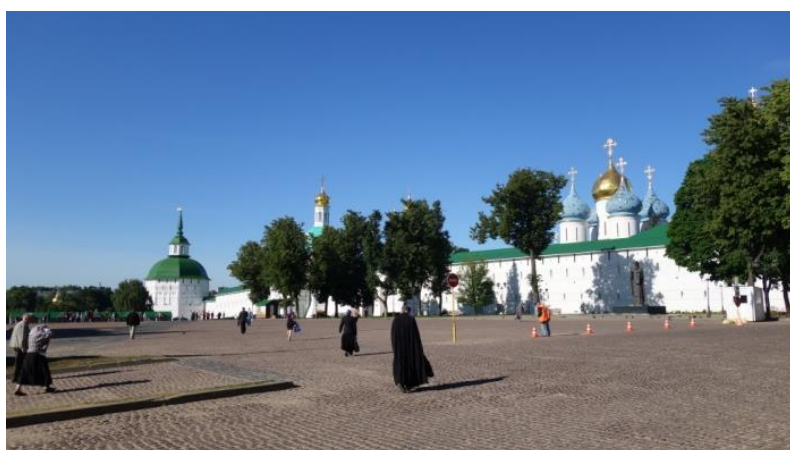


モスクワの高級食料品店エリセーエフスキー

写真は、モスクワの目抜き通りトヴェルスカヤ大通りにある「エリセーエフスキー」という高級食料品店です。ここもツアーで時間があれば是非立ち寄ってみたい店です。写真に写っているチョコレートやウオッカなどちょっと高めのものが多いのですが、普通のスーパーのような食料品も置かれています。このお店の特徴は、商品の品質の良さだけではなく、店の内装が豪華で、本当に 18 世紀末の建築で文学サロンとしても利用されていた建物です。ネオバロック様式の非常に美しく豪華な内装となっています。1900 年代の初め帝政ロシアの時代にエリセーエフという商人が開いた店で、ソ連時代もやはり高級食料品店として続いてきた店です（年中無休、24 時間営業。最寄りの地下鉄駅：トヴェルスカヤ駅）。

モスクワ近郊～マトリョーシカ発祥の地セルギエフ・ポサード

モスクワの郊外にセルギエフ・ポサードという古都があります。モスクワからバスで約 2 時間、かつてロシア正教の本山にもなっていた町です。写真は、セルギエフ・ポサード観光では必ず訪れる有名なトロイツェ・セルギエフ修道院（三位一体聖堂）です。添乗で行ったときに、修道院のすぐ近くに教会経営のホテルがありまして、そこに宿泊しました。朝、見渡したらちょうど修道士さんたちが出勤するところで、面白いなと思って撮ったものです。このセルギエフ・ポサードがマトリョーシカ発祥の地とも言われているんですね。



トロイツェ・セルギエフ修道院



セルギエフ・ポサードの国立玩具博物館

マトリョーシカは今から約 120 年前、1800 年代の終わり頃にロシアで作られるようになったのですが、マトリョーシカ発祥についてはいろいろな説があります。その中で一番有力なのが、実は日本発だと言われています。箱根に七福神の入れ子人形というのがあるので、これがヒントになってマトリョーシカが生まれたと言うんですね。セルギエフ近郊に住んでいたモーマントフという鉄道会社の総裁の奥さんが日本に来て、箱根に避暑に行った。その方が七福神の入れ子人形をロシアに持ち帰った。モーマントフさんというのは芸術家のパトロンや子供の教育にも関わっていたので、ロシアの風味をつけた

玩具として入れ子人形のマトリョーシカが作られたというわけです。モーマントフ夫人のマトリョーシカ人形は 1900 年のパリ万博に出展され賞を取って、そこからマトリョーシカがロシアの民芸品として有名になったということです。

マトリョーシカの発祥については他にもロシア正教会のイースターエッグが元になったのではないかといた説もあるのですが、箱根の七福神人形が一番有力な説になっております。セルギエフ・ポサードの国立玩具博物館には、モーマントフ夫人が持ち帰ったという七福神の入れ子人形が保存されていますので、セルギエフ・ポサードに行かれたら是非見ていただければと思います。

熊の木工玩具で有名なボゴロツコエ



セルギエフ・ポサードからもう少し北に行ったところにボゴロツコエという村があります。ここは木彫りの熊の人形で有名なところですが、ひもを引っばったり、棒を押し引きすると熊が面白い動きをするのが特徴です。小刀で木を削っただけの単純な玩具で、彩色もされず、木の本来の美しさと動物たちのかわいらしさが魅力的です。



この村には民芸学校がありまして、日本でいえば高校生くらいですかね、初等中等学校を終えた 17~18 歳の若者が全国から集まって、木彫り工芸を習っています。

マトリョーシカの産地巡り

モスクワからちょっと離れた周辺の都市にマトリョーシカの産地がたくさんあります。日本のこけしと同じように、地方によってそれぞれ特徴のあるマトリョーシカが作られています。

一番ポピュラーなマトリョーシカ産地「セミョーノフ」

モスクワの東、約 450km のところにニジニ・ノヴゴロドという町があります。ノヴゴロドというのはモスクワの北の方のペテルブルグ近くにあるロシア一番の古都ですが、その町とは別にニジニ・ノヴゴロド。ニージニというのはロシア語で「下の」という意味の形容詞ですが、北のノヴゴロドとは別に東のボルガ川沿いにニジニ・ノヴゴロドという大きな町がありまして、その近くのセミョーノフという村がマトリョーシカの一大産地になっております。マトリョーシカだけではなくて、ホフロマ塗り=スプーンやカップなどの木製漆器の産地でもあり、セミョーノフ村の工場で作られたマトリョーシカやホフロマ塗りは、モスクワをはじめロシア全土で売られています。お土産屋さんの買い物でまず目にするのはこのセミョーノフ村のマトリョーシカだと思います。



特徴は黄色のスカーフ、そしてお腹のところに華やかに花が描かれています。よく見ると頭の部分に黒い渦巻き模様がはいっています。これが何を意味するのかよく分かりませんが、この渦巻き模様がセミョーフ産マトリョーシカの目印になっています。

真ん中の写真は、工場でマトリョーシカの絵付けをしているところです。白木から削り出したマトリョーシカに工員さんたちが手作業で絵付けをしています。上の写真は、実は 6 月になるとセミョーフ村でロシア全土から民芸家たちが集まって民芸市が開かれるのです。私も何年か前に行きましたけれども、非常に大きな民芸市でとても楽しかったです。ここに行けばもうロシアの民芸品は何でも揃いますので、ツアーを組んで行くと面白いと思います。



ポルホフスキーマイダンのマトリョーシカ



ノリンスク産(麦わら細工)



ヨシカル・オラ産(民族衣装)

ちょっと変わったマトリョーシカ

左は、セミョーフ村からもう少し奥に入ったポルホフスキーマイダンのマトリョーシカです。赤、青、緑といったカラフルな色遣いが特徴です。

中央は、ノリンスク産の麦わら細工を施したマトリョーシカです。ノリンスクはニジニ・ノヴゴロドからさらに 400km ほど東にある小さな町ですが、麦わら細工を表面に貼り付けた非常に精巧なマトリョーシカが作られています。これはモスクワなどでもなかなかお目にかかれない希少なマトリョーシカなので、見つけたら是非お土産に買って帰られたらよいのではないかと思います。

一番右の写真は、マリエル共和国のヨシカル・オラ産のマトリョーシカ。ニジニ・ノヴゴロドの東にタタール共和国のカザンという町がありますが、マリ・エル共和国はその北にあります。ちょっと珍しいマトリョーシカです。ロシア人というのはスラブ民族ですが、マリエルは民族的にはフィンランドとかエストニアに住んでいるウラル語族に属していて、ロシア正教にも入らず自然崇拝の独特な文化を保持してきた民族です。そのマリエルの民族衣装がこの白い装束で、三角錐の頭巾がもう一つの特徴です。これも珍しいので見つけたら面白いかと思います。



左の写真は、工場での絵付け作業の様子です。右は、ツアーの参加者の皆さんが絵付け体験をしているところです。これも楽しい体験で、皆さん自分のオリジナルな作品を作って喜んで帰ってこられます。

地方の工芸品・名産品

マトリョーシカだけでなく、地方の工芸品・名産品もご紹介します。

ゴロジェッツは、セミョーフ村とニジニ・ノヴゴロドの間にあります。馬とか動物の絵をモチーフにして作った民芸品で



ゴロジェッツ塗り



フィルモノワの土人形

フィルモノワはモスクワの南東、バスで3時間から4時間くらいのところです。ロシアの民芸品というとマトリョーシカが一番有名ですが、歴史が古いのは実は土人形の方で、400年くらいの伝統があるんですね。マトリョーシカはせいぜい100年ちょっとですけれども、こちらは400年。ですからフィルモノワだけではなくて、たとえばキーロフ(モスクワの北東約800km)とかアルハンゲリリスク州カルゴポリとか、いろんな地方で独特の土人形が作られています。フィルモノワの土人形はとくに色彩がカラフルで、可愛いものが多いですね。



りんご焼きのお菓子「パチスラ」

ちょっと変わったところでは、パスチュラというリンゴ焼きのお菓子があります。

モスクワの南東 100km ほどのところに、ちょうどフィルモノワとモスクワの間ですが、コロムナというロシアの古都があります。パスチュラはコロムナ名産のお菓子で、リンゴのピューレと卵白、砂糖を混ぜ合わせて焼いた菓子です。ロシアのお菓子は砂糖が多くて日本人には甘過ぎるものが多いのですが、パチスラは非常にさっぱりした味で美味しいです。

コロムナには、昔のパチスラ製造工場跡の博物館があって、ここではパチスラ作りの実演が体験できます。作ったパチスラを、あとのティーパーティーと一緒に食べるのも楽しいです。

日本ではパチスラはまだあまり知られていませんが、NHK の「グレーテルのかまど」で作り方が紹介されていました。もし興味ありましたら、NHK、グレーテルのかまど、パスチュラで検索したら作り方が出てくると思います。

「ロシア版、行くぜ！東北」アルハンゲリリスク

「行くぜ！東北」と見出しをつけましたが、アルハンゲリリスクはモスクワからほぼ真北に 1000km ほど離れています。スカ



ンジナピア半島のつけ根から東に瘤のように飛び出したコラ半島が作る内海＝白海に注ぐドビナ川の河口にアルハンゲリスクがあります。北極海とつながった寒い地域です。

ゴロジッツ塗りと少し似ていますが、赤と黒の線や動物をモチーフにした塗り物がアルハンゲリスクの民芸品の中心です。右端の写真は 1 本の木から削り出して作った鳥で、メゼーネ塗りと言いまして、「幸福の木の子」と呼ばれています。赤ちゃんの健やかな眠りと成長を祈る民間信仰にもとづくもので、もともとはおもちゃとして作られたものです。モスクワなどでも売られていますが、なかなか珍しいものです。

フツの買い物は、どの町にでもあるスーパーがお勧め

以上、マトリョーシカや民芸品を中心にちょっとマニアックなもののばかり紹介しましたが、普通のツアーで気軽にお土産を買うにはどうしたらいいのかという疑問があるといけませんので、最後に「お土産の買い物はどの町でもあるスーパーがお勧め」と紹介させていただきます。



写真は、アルハンゲリスクでたまたま入ったスーパーの商品棚ですけれども、ウォッカ、ワイン、缶ビール、チョコレート菓子、キャビアといういろいろ並んでいます。値段が安くて、夜遅くまでやっている所が多いので、買い物にはとても便利です（ただし、アルコール類の販売は夜 10 時までなどの時間制限があるので注意）。

ロシアの酒というとウォッカですが、最近はロシア人もウォッカをあまり飲まなくなって、ビールやワインがよく売れています。ロシアのビールではバルチカが有名です。写真はバルチカの 3 番と 7 番が写っていますが、0 番がノンアルコールで数字が上がるとアルコール度数も上がって行きます。3 番がクラシックで一番飲まれていると思います。



上の写真は、最近できたモスクワのフードコート＆市場です。モスクワは最近やたらとフードコートが増えていまして、日本のフードコートは家族連れが多いですが、ロシアでは友人と買い物したりビジネスで商談に使ったりといった使われ方もしています。料金は少し高めですが、いろんな料理を食べることができますし、キャビアとか高級品も売ってたりします。ツアーであまり時間がない時などにフードコートを利用して、少し冒険してお客様に自分で食べていただくなんていうのもできるかと思います。

極東ではカニ缶探しも

下の写真は、極東ウラジオストクとサハリンのスーパーです。サハリンやウラジオストクでは、やっぱり日本人が好きなカニですね。写真はボイルしたタラバガニですが、缶詰もあります。生のカニを持ち帰るのは大変なので缶詰を探せばかなりお得な値段で買えると思います。ただ、最近はロシアでもカニはあまり出回っていないので、ガイドさんに早い目に頼んでカニ缶を探してもらった方がいいです。私もウラジオストクやハバロフスクでも探してもらった事があるのですが、やっぱりサハリンが一番見つけやすかったですね。何年か前ですが、200g くらいの缶詰で千数百ルーブル、日本の半値とは言いませんけれどもかなり安い値段でした。



海と海軍の町ウラジオストクでの買い物

最後になりますが、日本に一番近いウラジオストクでの買い物です。ウラジオストクはロシア太平洋艦隊の司令部がある町で、「海と海軍の町」と言えます。

写真は、ウラジオストク中央広場の週末市場です。2〜3 年前に JATA と観光庁で組まれたウラジオストク視察旅行に同行させていただいた時に撮ったものです。11 月で、翌日から雪が降るようなタイミングでもうかなり寒かったですが、中央広場の週末市場はまだやっておりました。



ウラジオストクの週末市場は、通常は 4 月末から 10 月末くらいまで、毎週金曜日和土曜日に開かれています。お土産を買うというよりも、市場内を見ながら楽しんでいただくのが良いと思います。

真ん中の写真はロシアの蜂蜜です。ロシアは蜂蜜天国で、いろいろな種類の蜂蜜があります。蜂が蜜を集める花の種類によって味も香りも違いますので、いろいろ試してみただけだと思います。

右端は地元のチョコレートです。ちょっと特徴がありまして、これ昆布のチョコレートなんですね。морская капуста=海のキャベツと書いてありますが、昆布入りの変わったチョコレートです。ホタテ貝のチョコレートなんていうものもあります。地元のチョコレート会社で作っているものですが、フォーキナ通りというウラジオで一番賑やかに店が並んでいる通りに、直営ショップを出しています。ここも立ち寄ると面白いと思います。

ルースキー島に作られたウラジオストク水族館は、展示水量世界 3 位という巨大水族館です。イルカショーなんかもやっていますが、ペルーガという白いイルカがここのシンボルで、館内の売店では白イルカのお土産なども売っています。

ほかにも「フロツキー」というロシア海軍のお土産屋さんがあります。太平洋艦隊の帽子とか T シャツなんかも売っています。



ルースキー島水族館



海軍の店「フロッツキー」

まとめにかえて

今はコロナの時期で海外に行くことは難しいですが、コロナ終息後は是非ロシアのツアーを企画してみてください。

ロシアのお土産とショッピングについてまとめておくと、マトリョーシカとかロシア雑貨を切り口にする、観光とショッピングを有機的に結び付けたプランを作れると思います。ロシアの土産物店では見るだけではなくて手に取ってみることができます。マトリョーシカの絵付け体験とか、お菓子作りとか、マスタークラスを組織すれば、現地の職人さんたちと一緒に交流しながら楽しんでいただくことができます。バスをチャーターして行きづらい場所にも行くことができます。工場や工房の見学など個人では手配できない体験をするといったグループツアーならではの利点を生かしたプログラムを組み、それにショッピングも結びつけていくと、非常に楽しいツアーになって喜んでいただけるのではないかと思います。

(本稿は、2020年12月22日、日露観光交流セミナーでの報告を文章に起こし補加筆したものです。)

ロシア観光情報／ロシアの世界遺産

ロシアの世界文化遺産と自然遺産

岡本 健裕 (ジェーアイシー旅行センター株式会社・アウトバウンド部)

ロシアの世界遺産についてお話しします。

リストをご覧ください。2020 年現在、ロシアには約 29 件の世界遺産が登録されています。ここで「約」とつけたのは、日本から見ると 29 件なのですが、ロシアから見ると 30 件あるからです。どういうことかということ、実はうち 1 件はクリミアにあるのです。それで「約」29 件と少しあいまいな書き方をしております。

そのうち文化遺産が 18 件(ロシアから見ると 19 件)、自然遺産が 11 件あります。一部の遺産は複数の国にまたがっていて、隣のリトアニアと共有しているもの、モンゴル国境にまたがっているもの、さらにノルウェーなど 10 か国で共有している遺産もあったりします。

ロシアの世界遺産リスト約29件

文化遺産18+α

- ・ サンクトペテルブルク歴史地区と関連建造物群(1990)
- ・ キジー島の木造教会建築(1990)
- ・ モスクワのクレムリンと赤の広場(1990)
- ・ ノヴゴロドと周辺の文化財(1992)
- ・ ソロヴェツキー諸島の文化的・歴史的遺産群(1992)
- ・ ウラジーミルとスーズダリの白亜の建造物群(1992)
- ・ セルギエフ・ポサードの至聖三者聖セルゲイ大修道院の建造物群(1993)
- ・ コローメンスコエの主の昇天教会(1994)
- ・ クルシュー砂州(2000) リトアニアと共有
- ・ フェラポントフ修道院の建造物群(2000)
- ・ カザン・クレムリンの歴史的・建築的複合体(2000)
- ・ デルベントのシタデル、古代都市、要塞建造物群(2003)
- ・ ノヴォデヴィチ修道院の建造物群(2004)
- ・ ヤロスラヴリの歴史地区(2005)
- ・ シュトルーヴェの測地弧(2005) ノルウェーなど10カ国で共有
- ・ ボルガルの歴史的考古学的遺産群(2014)
- ・ スヴィヤジツクの集落島の生神女就寝大聖堂と修道院(2017)
- ・ プスコフ建築派の聖堂群(2019)
- ・ ケルソネソス・タウリケの古代都市とその農業領域(2013)※クリミア

自然遺産11

- ・ コミの原生林(1995)
- ・ バイカル湖(1996)
- ・ カムチャツカの火山群(1996、2001拡大)
- ・ アルタイの黄金山地(1998)
- ・ 西カフカース(1999)
- ・ シホテアリニ山脈中央部(2001、2018拡大)
- ・ ウヴス・ヌール盆地(2003) モンゴルと共有
- ・ ウランゲル島保護区の自然体系(2004)
- ・ プトラナ台地(2010)
- ・ レナ石柱自然公園(2012)
- ・ ダウリヤの景観群(2017) モンゴルと共有

地図上で先ほどのリストをご覧ください。濃い赤色の四角■で示した地点が文化遺産の場所、濃い緑の丸●で示した地点が自然遺産の場所です。一見してお分かりいただけるように、文化遺産はロシアの西の方、いわゆるヨーロッパロシアに偏って分布しております。一方、ウラル山脈以東のシベリア、極東地域は自然遺産ばかりとなっています。

ご存知の通り、世界遺産というのは必ずしも観光地ではありません。地図上の 29 か所を万遍なく紹介するのは、このセミナーの趣旨的にも、また時間的にも現実的ではありません。というわけで、ここからは私が、旅行業界関係の皆様向けに実用本位に特化して取捨選択したいいくつかの世界遺産を、カテゴリー別にご紹介いたします。



最も訪れやすい世界遺産9箇所（旅程管理リスクの低い世界遺産）

まず、ロシアで最も訪れやすい世界遺産として9箇所を取り上げます。これらは、

- ・日本から直行便あるいは一回乗り継ぎするだけで到着できる
- ・季節を問わず通年訪問することができる
- ・事実上人数制限がない
- ・近隣に宿泊施設が豊富にある

という条件をすべて満たすと私が判断して選びました。（※旅行会社の方々には、「最も旅程管理リスクが低い9箇所」と読み替えていただくと、実用的な意味がより伝わるでしょう。）



① モスクワのクレムリンと赤の広場

モスクワのクレムリンと赤の広場はロシアで最も有名な観光地の一つです。おそらく皆さまもご存知だと思います。ここを



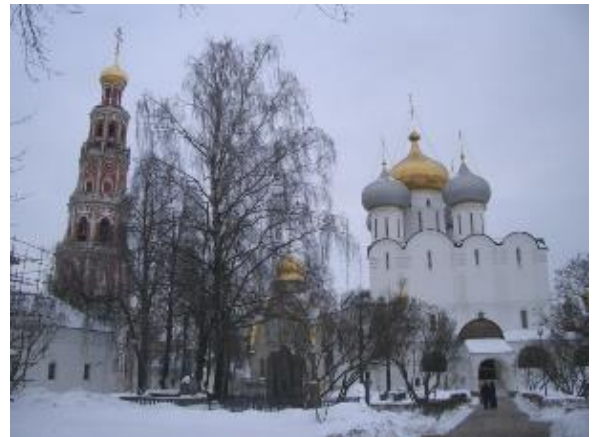
詳しく説明すると時間が足りませんので、ごく簡単に済ませます。モスクワはもちろん日本から直行便で行くことができます。写真は赤の広場です。右の方に見えている赤い壁と時計塔の右奥がクレムリンです。時計塔の手前に見えているピラミッド状の建物はソ連時代に作られたレーニン廟で、内部にレーニンの遺体が安置されています。中央正面は有名なロシア正教の聖堂で、聖ワシーリー聖堂。ロシアと言えばこの丸いネギ坊主の正教寺院を思い浮かべる方が多いかと思います。クレムリンの中にもいくつかのロシア正教寺院があります。これが「モスクワのクレムリンと赤の広場」という名前で登録されている世界遺産です。



② ノヴォデヴィチ修道院の建造物群

ノヴォデヴィチ修道院はモスクワの都心部にあります。地下鉄でも簡単に行けます。また大型バスを仕立てて行っても問題なく駐車ができます。ガイドと共に見学するのであれば、駆け足で1時間、ちゃんと見るなら2時間はとってください。

ここはロシア正教の現役の女子修道院です。日により、また時間により宗教行事が行われています。宗教行事には、信者しか入れないものもありますし、一般の観光客が見学できるものもありますが、それも含めて世界遺産として実感いただける見どころになっています。

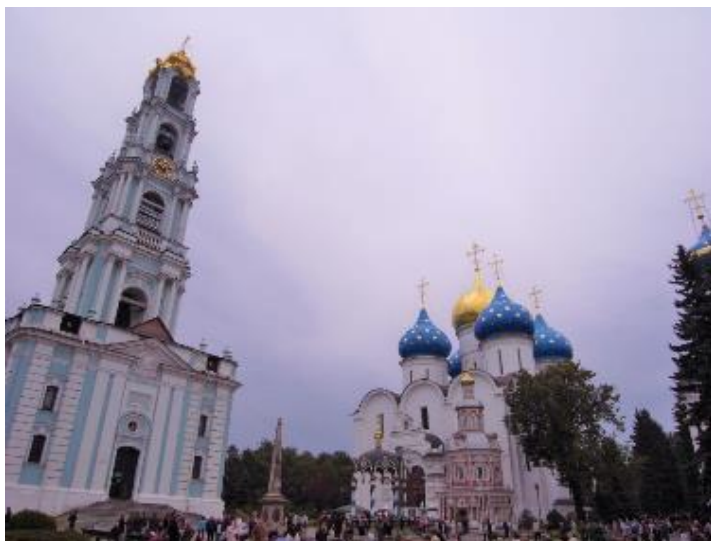


ノヴォデヴィチ修道院の歴史を簡単に説明します。修道院は1524年、16世紀の創建です。初めからこの姿だったわけではなくて、時間をかけて建物が増えていき、17世紀末までに現在みられるほとんどの建物がそろいました。全体はこの遠景の写真に写っているように、城壁に囲まれた砦のようになっており、外敵から守られています。ロシアの修道院によくある建築様式です。ロシア革命後のソ連時代には、修道院としては一度閉鎖されました。建物の一部は博物館になったり、モスクワ市民の住居に転用されたりしたのですが、その後再び修道院として活動を復活させて今日に至っています。

③ セルギエフ・ポサードの至聖三者聖セルギイ大修道院の建造物群

覚えるのも大変な名前ですが、私たち旅行会社がこの登録名称をいちいち全部言う必要はほとんどありません。通常はセルギエフ・ポサードと紹介しています。至聖三者聖セルギイ大修道院というのも、簡単にセルギエフ・ポサードの修道院と言えば通ります。

セルギエフ・ポサードはロシア正教の最も重要な宗教都市のひとつで、モスクワから北東に80kmほど離れた場所です。車で行くと1時間半くらいですが、渋滞すると2〜3時間かかってしまう場合もありますので、セルギエフ・ポサードを訪れる



場合は移動時間に少し余裕をもって計画することをお勧めします。少々距離はあるものの、公共交通で行くことも難しくありませんので、FIT（エフアイティー：個人旅行）のお客様にもここはお勧めできます。また、渋滞しても片道3時間なので、モスクワから無理なく日帰りできます。モスクワにはホテルが沢山ありますので、宿泊も特に困ることはありません。見学に要する時間は、ガイドとともに駆け足なら1時間ですが、できれば2時間くらい時間を取っていただきたいです。

先程のノヴォデヴィチ修道院は女子修道院でしたが、こちらは男子修道院です。ロシア正教において非常に格式の高い修道院で、やはり現役ですので、宗教行事が活発に行われています。日により時間により、観光客が見られるものと見ら

れないもの、色々あります。そのあたりの情報も、訪問にあたっては事前に入手して確かめておくことをお勧めします。セルギエフ・ポサードの歴史は1337年まで遡るらしいのですが、現在見られる荘厳な建築物群はほぼ15世紀から18世紀にかけて300年ほどかけて徐々に揃ってきたものです。例によってソ連時代には修道院としての活動が一度廃止されましたが、その後復活して現在に至っております。

④ コローメンスコエの主の昇天教会

コローメンスコエは、都心ではないですが、モスクワ市内です。地下鉄で簡単に行くことができます。世界遺産に登録されているのは写真に写っている教会の建物だけです。周辺は広い公園になっています。

この教会は八角尖塔式というのですが、この尖った屋根を上から見ると八角形になっているのでそう呼びます。この様式の石造教会としてはロシアで最も古いとされているのですが、建てられたのは1532年のことなので、ロシア全体で見て古い教会と言えるかというところとちょっと微妙なくらいの新しさです。

周辺の公園は無料で誰でも入れるようになっていて、市民の憩いの場として親しまれております。写真の左下に写っているのはちょっと見えにくいですがモスクワ川です。その向こうの遠景はモスクワの市街地です。私がこの写真を撮ったときも周りに散策している人をたくさん見ました。実はコローメンスコエの公園内には、この教会とはまた別の教会とか、10年ほど前に復元された奇怪な形をした木造宮殿があったりして、非常に面白いのですが、残念ながらそれらは世界遺産ではないので割愛します。ゆったり散策するとモスクワの旅の合間にすごく良いところではあります。



⑤ サントペテルブルク歴史地区と関連建造物群

「サントペテルブルク歴史地区と関連建造物群」は、「モスクワの赤の広場とクレムリン」と同様にロシアで最も早く、1990年に世界遺産に登録されました。ソ連時代のことです。こちらロシアでは最も有名な観光地の一つですので、多くの方が十分ご存知だと思いますし、既にこのセミナーでも触れられていることと思います。私が詳しくお話すると時間が足りませんので次へ進みます。



⑥ ノヴゴロドと周辺の文化財

ノヴゴロドにはサントペテルブルグから行くのが便利です。サントペテルブルグから南に約180キロ離れています。180キロというと日本人の感覚では随分と遠いわけですが、しかし車で約2時間です。かつては3時間程かかったのですが、最近有料道路が完成して大幅に時間が短縮できるようになりました。しかし渋滞すると3時間以上かかるかもしれません。ここが渋滞するかというところは実はサントペテルブルグ都心部です。ここは渋滞が慢性化していますので都心部を抜けるまでの時間を甘く見ない方がいいですね。公共交通で行くこともできるので、ノヴゴロドはFITのお客様にもお勧めできます。ただし、セルギエフ・ポサードほど乗り物の本数が多いありませんので、そこは注意していただく必要がありますが、ペテルブルグから十分に日帰り可能です。

この町も見どころは非常に沢山あります。ガイドと共にじっくり見るなら最低2時間、できれば3時間以上は取っていただきたいですが、ゆとりがあれば1泊してご覧いただいたほうがいいですね。

ノヴゴロドという名前は、ロシア語で「新しい町」という意味なのですが、名前の意味とは反対にノヴゴロドはロシアで最も古い町の一つになります。

写真の建物は聖ソフィア大聖堂ですが、完成したのが1050年とされています。ロシアでも最も古い教会建築の一つで、先ほど紹介したノヴォデヴィチ修道院とかセルギエフ・ポサード



は主に16世紀以降の建造物ですから、それよりも500年以上古いことになります。この建物についてさらに言うと、ソ連時代には反宗教博物館となっておりました。今は一応教会ではあるのですが、どちらかというと保存建築のような扱いで、あまり活発な教会としては認知されていません。

⑦ カザン・クレムリンの歴史的・建築的複合体

まず、カザンというのは町の名前です。カザンはロシアでも指折りの大都会なのですが、日本での知名度はそれほど高くありませんでした。2018年のサッカー・ワールドカップの会場の一つになりまして、これをきっかけに知名度が上がりました。この時日本人渡航者がかなり増えたのですが、その後定番の旅行先として定着したかというはまだちょっと及ばないかもしれません。ただし、カザンは交通の便がとても良いです。モスクワから乗り継ぎ一回で行くことができますし、モスクワ以外にも例えばドバイ等で乗り継いで行くようなことも可能です。

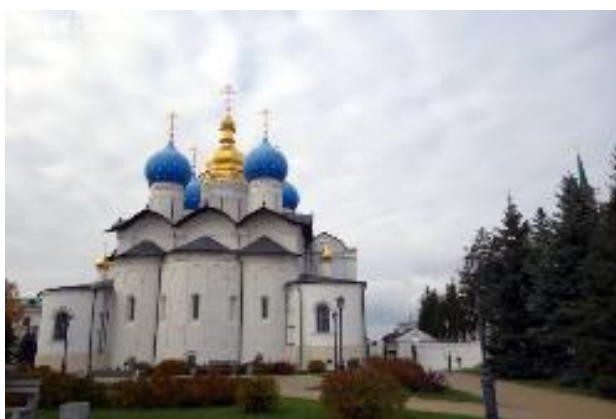
写真はカザン・クレムリンの全景です。カザンの町の中心部にありまして、地下鉄で行くことができます。



Kazan Kremlin, © Айрат Хайруллин CC BY-SA 3.0

クレムリンというのは、防護壁で囲まれた城塞を意味するロシア語です。クレムリンというと、「モスクワのクレムリン」が一番有名ですし、政治や外交の世界ではロシア政府そのものを指す言葉、日本で言えば「永田町」のような意味合いで使われる単語にもなっていますが、一般名詞としてのクレムリンはロシア各地に存在する、城壁で囲まれた砦のような建物を指す言葉です。

カザンはモスクワの東方約700km、ロシア連邦を構成する共和国の一つであるタタールスタンの首都です。トルコと近い関係のトゥルク系民族でタタール人と呼ばれる人たちの国なんですね。タタール人は主にイスラム教を信仰しています。カザン・クレムリンをよく見ると、ロシア正教の教会とイスラム教のモスクが同じ敷地内に同居しています。これはロシア各地にあるクレムリンの中でも、カザン・クレムリンの際立った特徴だと言えます。



写真はカザン・クレムリンの中の様子です。イスラムのモスク、ロシア正教の教会があります。男性がガラスに囲まれた部屋でデスクに座っている写真がありますが、これは何をしているかというと、一日中コーランを読み上げているんですね。で、案内表示板には3つの言語が並んでいます。一番左がタタール語、真ん中がロシア語、一番右は英語です。というように、カザンはロシア人から見ても少しエキゾチックな町です。空港に降りるとさっそくタタール語の標記があちこちにあり、タタール語が聞こえてくる、そういうところですよ。



⑧ スヴィヤジツクの集落島の生神女就寝大聖堂と修道院

スヴィヤジツクはヴォルガ川の中に浮かぶ島です。この島に築かれた町がスヴィヤジツクです。周りは水で囲まれているのですが、一か所だけ堤防で川岸と結ばれています。先に紹介したカザンから陸路、車で約2時間で行くことができます。ですからアクセスの良い世界遺産なんですね。

スヴィヤジツクの島の一角に建つ修道院が世界遺産に登録されています。現役で活動している男子修道院ですが、例によってソ連時代には一度閉鎖されました。1994年までは精神病院として使われていたのですが、今は修道院として活動を復活させています。



⑨ Байカル湖

「最も訪れやすい9箇所」の最後は皆さんご存じのバイカル湖です。ロシアの自然遺産でたった一つこの9箇所に加えることができたのがバイカル湖です。今日のセミナーの前半でバイカル湖の説明がありましたので、私からつけ加えることはあまりありません。世界一深く、世界一透明度が高く、世界最大量の淡水を貯える湖で、世界で20箇所ほどしかない古代湖です。

最寄りの都市はイルクーツクです。日本からイルクーツクへの直行便は今のところ無いですが、乗り換え一回で行くことができます。イルクーツクの町からバイカル湖までは車で約1時間程度。大変アクセスが良いんですね。また、イルクーツクという町はシベリア鉄道で旅行される方にとっても訪れやすいところです。シベリア鉄道というのは端から端まで乗ると最速で車内6泊かかるのですが、モスクワから乗ってもウラジオストクから乗っても3泊目で着くのがイルクーツクです。ですから途中下車地としても人気があって、ここでシベリア鉄道を降りてバイカル湖やイルクーツク市内を散策する方がたくさんいらっしゃいます。また、途中下車しなくても、明るい時間帯であればシベリア鉄道の車窓からバイカル湖は何時間も見る事ができるので、それで満足される方もいらっしゃいます。

以上が、私が選んだ「最も訪れやすい9箇所」（旅行業界向けには、「旅程管理リスクの低い9箇所」）の世界遺産です。



個人・小グループ向きの世界遺産（旅程管理上、注意が必要な世界遺産）

ここからは、「FITや小グループ向きの5箇所」を紹介します。

- ・最寄りの大都市から日帰り困難
- ・訪問可能な季節や人数に制約がある
- ・近隣に宿泊施設が豊富ではない

こういった理由で先ほどの9箇所から外した世界遺産が15箇所あります。（例によって、業界の方々は「旅程管理上、注意が必要な15箇所」と読み替えてみてください。）その15箇所のうち、今回は私の独断で5箇所を選んでみました。地図中、文字を大きくしているのがその5箇所です。

① ウラジーミルとスーズダリの白亜の建造物群

ウラジーミルとスーズダリは、いわゆる「黄金の環」という名前で総称されるモスクワ近郊の観光地群の中でも、盟主と言っていいくらいの二つの町ですね。どちらもモスクワから東へ車で約4～5時間の場所にあります。モスクワからの距離は220kmくらいです。頑張れば日帰りできるのですが、しない方がお勧めです。

この主な建造物群は大体12世紀ごろに作られていて、モスクワよりも4～5百年ほど古いんですね。その頃まだモスクワは小さな村に過ぎなかったのですが、ウラジーミルやスーズダリは大公国として十分に栄えていました。ただし、13世紀にモンゴル（広義のタタール）に攻め込まれて、教会は荒廃します。その後修復されて美しい姿をしています、教会としてはあまり現役ではない、記念碑的な建造物群となっております。



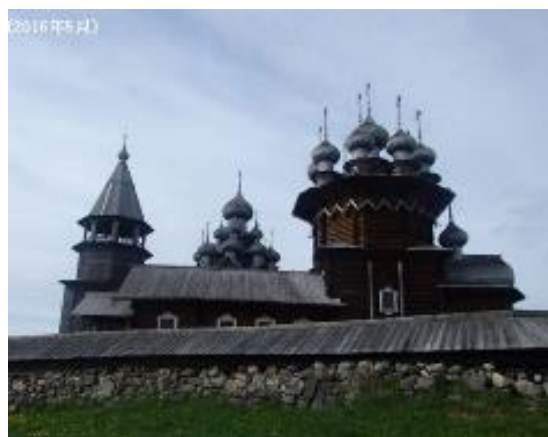
② キジー島の木造教会建築

キジー島は大変人気のある観光地です。一度は行ってみたいと思っている方も沢山いらっしゃるのですが、残念ながら一年中行けるわけではありません。



キジー島は、ロシア連邦を構成するカレリア共和国という国の中にある、オネガ湖に浮かぶ島です。この島へ行くためにはまず、カレリア共和国の首都であるペトロザヴォーツクへ行く必要があります。サンクトペテルブルグからは鉄道で約6時間、モスクワからだとは夜行列車で一晩かかります。またモスクワからは飛行機も飛んでいて、2時間弱でペトロザヴォーツクへ着きます。ペトロザヴォーツクからは水中翼船に乗ってキジー島まで1時間強です。

この水中翼船に乗れる季節が限られているんですね。例年5月から10月まで運行することになっているのですが、湖が凍ってしまうと水中翼船は走れません。冬が早く来ると10月になる前に運航が終わることもあります。湖が完全に凍結すると車でも行けるのですが、氷が薄い時期は車でも水中翼船でも行けませんので、ホ



パークラフトあるいはヘリコプターをチャーターするといった随分お金のかかる行き方しかなくなります。

キジー島で特に有名なのが写真の**顕栄聖堂**と呼ばれる木造教会です。約300年前の1714年に作られた建物ですが、ここ何年間もずっと修復が続いておりました。2020年10月に修復が完了したばかりです。

この教会建築群ですが、「釘が一本も使われていない」とよく紹介されています。ソ連時代のガイドブックにもそう書いてあったのでロシア人でも信じている人が多いのですが、これは一種の伝説で事実ではありません。建物の玉ねぎ型の屋根に細かな板が沢山ついているのですが、これは全部釘で打ちつけてあります。実は大量の釘が使われているんですね。

一方、建築時に斧だけで作ったというような紹介もあります。これも半分は伝説なんですけど、半分は正しいです。実は斧だけでこんな繊細な建築を作ってしまうんですね。もちろんノコギリとかノミとかキリとかいろんな道具を使っているのです



けれども、例えば屋根のギザギザの入った板（レメフ / лемех と呼ばれる）、これは斧だけで作っています。この板はアスペンという木を使って作るのですが、アスペンは割箸とかマッチの軸の材料にもなっている柔らかい木です。それを斧一本でサクサクと切り刻んで、ギザギザの板を本当に作ってしまうのですね。写真はその実演風景です。最近になって、彼ら（キジー博物館）自身がこの作業の様子を動画 YouTube にもアップしましたので、この写真よりもずっとよくわかります。ぜひご覧になってみてください。

（動画タイトル：Изготовление лемеха 投稿者：Кижский Музей URL：<https://youtu.be/YEu6TtTSpUc>）

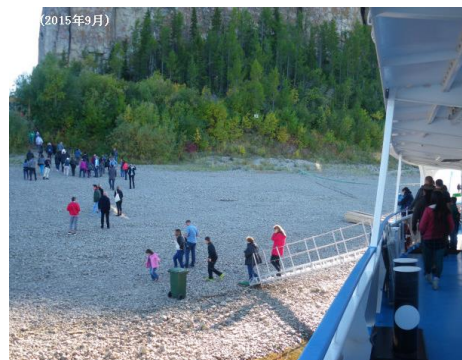
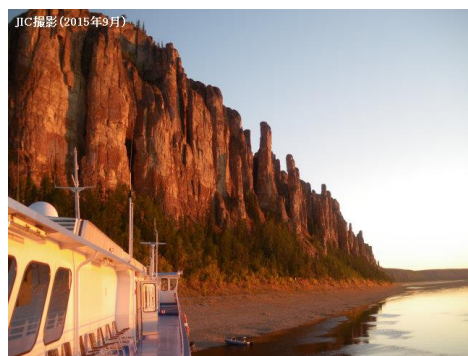
また同じくよく言われていたことで、この木造建築は無名の大工が奇跡のような技で作り上げたので、謎が多くて修復が上手くできないといった紹介のされ方もされていました。一昔前まではそうだったのですが、現在は研究の結果多くのことがわかっていきますし、復活させた技術の継承も試みられているんですね。したがって、お客様に紹介するときは、あまり神秘的に偏った煽り文句を鵜呑みにした説明はしない方が誠実だと思いますし、本来の世界遺産の趣旨にも則っていると思います。

③ レナ石柱自然公園



「レナ石柱自然公園」は、サハ共和国というロシア連邦の構成国家の一つにあります。ここを流れるレナ川の河岸に連なる巨大な石柱群なのですが、ここまで行くのは少し大変です。

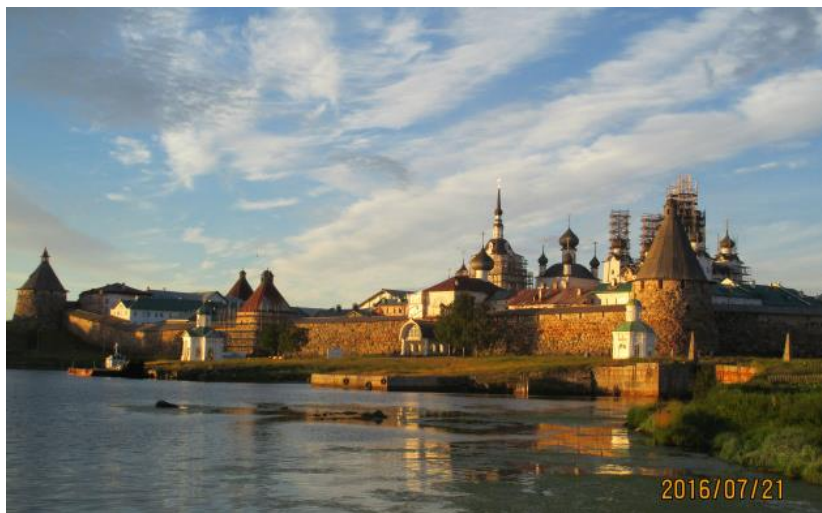
まずサハ共和国の首都ヤクーツクまで飛行機で行きます。たまに日本からチャーター便が出ますが、基本的にはハバロフス



クかどこかで乗り継がないとたどり着けません。そしてヤクーツクからは船に乗る必要があります。この川岸までヤクーツクから往復2泊3日くらいのクルーズ行程です。いわゆる定期旅客船は運航されていないものと考えてください。夏季に就航するクルーズ観光船を利用することになるので、そのスケジュールに合わせた旅程を組んでいただきます。一応、冬でも川がきれいに凍れば車で行くこともできます。しかし、楽しく旅行するにはやはりクルーズということになります。写真のように立派な船を本当に岸ギリギリに接岸して、そこでタラップで降りて写真を撮ったりアトラクションを楽しんだりしてまた帰るといようなプログラムになります。

④ ソロヴェツキー諸島の文化的・歴史的遺産群

ソロヴェツキー諸島は白海という北極海につながる北の海にあります。最寄りの町はアルハンゲリスク。ここまではモスクワ乗り継ぎでそんなに難しくないのですが、アルハンゲリスクーソロヴェツキー間の飛行機が非常に小さくて、座席が少なく、週2便くらいしか定期的に飛んでいないんですね。飛行機でソロヴェツキーを訪れると少なくとも2〜3泊は覚悟する必要があります。一応、西側のカレリア側ペロモルスク、ケミという港町からは船もあって、夏季は毎日運航しますが、こちらは大都市からのアクセスがよいのです。それでもロシア人の間でソロヴェツキー諸島への旅は結構人気があります。



ソロヴェツキー諸島の中心施設はソロヴェツキー修道院です。1429年、15世紀から存在します。高緯度地方の厳しい自然環境で、まさに修業の場ですね。そういう特殊な環境で人を簡単に寄せ付けないので、かつてロシア正教では異端扱いされた古儀式派がここにこもって政府と対立したり、ソ連時代には最初の強制収容所がここに作られたりしました。収容者は極めて過酷な境遇に置かれたのですが、これはその後ソ連各地に作られる収容所（ラーゲリ）のモデルになっています。

島内には他に、石の迷路状の遺跡があったりします。紀元前のものと考えられていて、同様のものがスカンジナビア半島にかけて広い範囲で発見されているのですが、誰がどのような目的で作ったのか、正確にはわかりません。

島の風景は高緯度らしく荒涼としていて、集落内の道は舗装されていません。宿泊施設も大規模なものはないので、インフラの面で大きなグループを送客するのは難しいでしょう。



⑤ カムチャッカの火山群



カムチャッカには夏季に時々日本からチャーター便が飛んでいます。チャーター便で直行すれば約4時間ですが、定期便であればハバロフスクなどで乗り継いで行くことになります。カムチャッカ半島は活火山の宝庫です。写真はコリャクスカヤ山ですが、このような火山がゴロゴロあって、世界遺産に登録されているんです。テントの写真がありますが、これは私ではない弊社のスタッフがアヴァチャ山に登った時の写真です。

右はウズン・カルデラです。泥火山があつたりしてまさに大地が熱を発散している場所ですね。こういった所へ行こうとすると、ヘリコプターをチャーターしたりなかなかアクセスが大変なのですが、雄大な自然をお楽しみいただけます。



以上、「FIT・小グループ向き15箇所」(旅程管理上、注意が必要な15箇所)のうち5箇所をご紹介しました。

上級者向き世界遺産(旅程管理に向かない世界遺産)

ここまで、「旅程管理リスクの低い9箇所」、「旅程管理上、注意が必要な15箇所」をご紹介しましたが、あと6箇所ほど世界遺産が残っています。これらは以下のような事情のどれかに当てはまるために「旅程管理に向かない世界遺産」です。

- ・道がない、町がない
- ・訪問に特殊な許可が必要
- ・外務省危険レベル3

しかし、行きたいというお客様はいらっしゃる。実際のところ、このような行き先でも、あらかじめ想定されるさまざまなリスクをお客

様に承知いただいた上で、お金と時間をかけるならば、手配は可能です。ただし、あくまで手配旅行で、かつ旅行条件と約款をよくご理解いただいた上でお引き受けください。旅程管理を伴うような契約はお避けになることをおすすめします。



最後はおまけです。下の図はロシアの世界遺産暫定リストです。クリミアも入れると 30 箇所以上あります。もしかしたらこの中で数年後に世界遺産になっているところがあるかもしれません。この中で旅行会社が注目すべきところして、一つ二つ挙げてみます。

まず「ヴォルゴグラードのママエフの丘」。ヴォルゴグラードは乗り継ぎ一回で行ける非常にアクセスのよい町です。人口も多く、ホテルも豊富にあります。2018年にはサッカー・ワールドカップの会場都市になった際に、市内のインフラが大幅に更新されました。

ロシアの世界遺産暫定リスト

オネガ湖のペトログリフ
ペロモルスクのペトログリフ
ケノゼルスキー国立公園 (複合遺産)
ヴァツコエの歴史文化複合体
コロボヴェツ
コムイの原生林 (拡大)
マガン自然保護区
シカチアランのペトログリフ
ダウリヤの景観群
アストラハンのクレムリン
アッサ・ジェイラフの文化歴史的景観
ヴェルゴグラードのママエフの丘
シュリガン・タシュ自然保護区 (複合遺産)
オグラフティ山脈
バジリク文化の遺跡
イルクーツク歴史地区
クラスノヤルスクの石柱群
エニセイスク歴史地区
ヴァシガン遺地
西カフカース (拡大)
タナイス
ペレスラヴリ・ザレスキー要塞と
救世主顕栄聖堂
ロストフのクレムリン
コマンドル諸島

もう一つ、「シカチ・アリヤンのペトログリフ」。シカチ・アリヤンは日本から片道約3時間の直行便で結ばれているハバロフスクから簡単に日帰りができる、大変アクセスが良い場所です。ハバロフスクにはホテルが豊富にあり、また優秀な日本語ガイドもたくさんいます。

「シカチ・アリャンのペトログリフ」はアムール川の岸の岩に刻まれた新石器時代の岩面彫刻です。人物や動物、幾何学模様などを描いた素朴な線画で、古いものは紀元前 12 世紀までさかのぼります。これら彫刻は、河川の増水期には一部水没するエリアにあるため、春先などの雪解けの時期の見学には注意が必要です。

というわけで、暫定リストの中からはこの2箇所を、最初に挙げた「最も訪れやすい9箇所」(旅程管理リスクの低い9箇所)のカテゴリーに加えることができそうです。

(本稿は、2020年12月22日、日露観光交流セミナーでの報告を文章に起こし補加筆したものです。)